

つくば市中心部における建物色と土地利用の関連

上坂 元紀（地球科学専攻）

1. 目的:

本研究では、建物色とその分布と土地利用との関連を日本における代表的な計画都市であるつくば市中心部で調査することによって、計画都市としてのつくば市の成り立ちと建物色との関連を明らかにする。

2. 研究対象地域

つくば駅を中心とし、北大通り、南大通り、東大通り、西大通りに囲まれた地域とする。この地域はつくば研究学園都市の中心となった区画であり、公務員住宅等の公共住宅、文京地区、計画された住宅地および商業地区を含んでいる。

3. 研究手法

まずフィールドワークによって、建物正面の建物色を調査した。研究対象地域においては平成19年10月より施行されたつくば市景観条例およびつくば市景観計画存在し、極端に鮮やかな原色の建物を新たに建設することは規制されている。本研究ではこの条例の建物色基準に沿い、分類を「白」「灰色」「ベージュ」「クリーム色」「茶色」「黒色」「その他」とした。建物正面の位置測定にはGPSを使用した。なお、全てのデータ取得は晴天の日中に行った。

次に取得したデータを Arc Map に取り込み、ZENRINのZ-Mapをベースマップとして分布図を作成した。また、ペDESTリアンから30メートルの線バッファを作成し、その範囲内の建物色を特に調査した。その際、各建物色の件数と面積を測定した。

次に、国土地理院の2008年の土地利用調査データを重ね合わせて分析を行った。

4. 結果・考察:

研究対象地域において、最も多く見られた建物色は白であり、全建物件数の48.3%を占める。次に灰色の建物色が多く、件数の16.7%である。つくば市景観計画では彩度の低い黄緑、緑、紫、青紫、赤紫の使用も許可されているが、それらの建物はほとんど見られなかった(本研究では「その他」として分類、全件数のうち0.9%)。

土地利用との関連では、住宅地のうち65%が白色であり卓越している。一方で商業業務用地に関しては白の占める割合は30.9%に留まり、他の土地利用よりも比較的多様な色使いが見られる。特にベージュ色の割合が他の土地利用よりも高い。公共施設に関しては、白が40.5%と卓越しているものの他の土地利用と比較してレンガの茶色による建物の割合が多い。つくば市の中心となるペDESTリアン周辺では、白の建物は8%に留まり、灰色が48%で最も卓越している。

結論として、つくば市中心部において建物色は比較的整っており、景観条例施行前より彩度の低い白、グレー、ベージュ、クリーム色でほとんどの建物が構成されていることが明らかになった。空間的には、ペDESTリアンの灰色の公共施設、センター周辺部の白色の住宅地、そして大通りに近い比較的多色の住宅地で構成されていると言える。

表 研究対象地域における建物色とその構成比

	件数	件数比(%)
白	333	48.3
グレー	115	16.7
ベージュ	121	17.6
クリーム	49	7.1
茶	63	9.1
黒	2	0.3
その他	6	0.9
合計	689	100.0

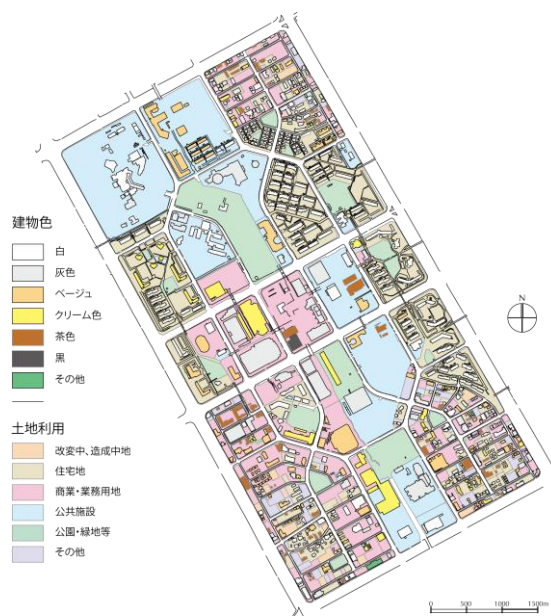


図 建物色と土地利用の分布